

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200385		
法人名	株式会社グランファリスナー		
事業所名	グループホームひだまりの丘		
所在地	岐阜県美濃加茂市西町7丁目101番地2		
自己評価作成日	平成29年3月7日	評価結果市町村受理日	平成29年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami-trus&ligvosvoCd=2171200385-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成29年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 体力維持、筋力アップのためのラジオ体操、ストレッチ体操など時間をかけて行っている。また、口顎を鍛えるためのお口の体操を1日2回食前に必ず行います。 2. 天気の良い日には、ご近所を散歩して季節の変化を感じる支援をしている。 3. 音楽療法を軸に歌声の響くグループホームです。また、読み聞かせや季節の壁紙を作成したり行事等の楽しみを見つけて毎日を穏やかに生活している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>丘の上に建てられた事業所は、自然豊かな環境の中で、徐々に地域との交流が進みつつあり、利用者が地域の一員として暮らしている。管理者は、職員が気軽に意見を言えるよう、風通しの良い職場環境づくりに努めており、職員の定着率も良い。健康体操やリハビリを取り入れたレクリエーションを利用者全員で行なったり、音楽療法を取り入れて、皆で歌うことを楽しみながら、利用者の笑顔を引き出している。また、利用者のやりたいことの実現や、日々の生活の中で役割を持ち、生きがいを持って暮らせるよう、全職員で支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、目のつくところに設置し一日の業務分担表に記載して職員が共有、実践できるよう努力している。	「笑顔で挨拶・言葉は優しく・地域と共に認め合う自己決定」という理念を掲げ、玄関や居間などに掲示している。理念は、職員間で日々確認し合い、申し送り時や職員会議の中で共有し、より良いケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出、散歩等で出会った方々には大きな声で挨拶している。また、いきいきボランティアの方々に来ていただいている。折り紙等の作品づくりにも来ていただいている。	ホーム主催の夏祭りには、地元の子供や住民の参加があり、地域交流の場となっている。近隣保育園の運動会では、利用者が玉入れに参加している。中学生の福祉体験の受け入れについて、現在、学校に持ちかけている。また、地域の掃除等を通し、住民との交流の機会を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回の夏祭りを開催する際には、近隣住民数十軒にチラシを配布し参加していただけるように呼びかけています。春は、子供神輿の休憩所として利用していただき、秋は、地元の保育園の運動会に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を行い民生委員、近隣住民、自治会長、利用者様御家族代表の参加をしていただき意見交換をしている。	家族、利用者、行政、地域代表者、民生委員が参加し、防犯対策や感染症などについて、意見交換を行なっている。非常時における住民との連携について、参加者の質問も交え、具体的な取り組みを話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	1ヶ月に1回の地域ケアネット会議に参加し、入居者の情報等のお願いをしている。運営推進会議にはチラシ等を頂き情報を提供して頂いています。	介護保険制度改正についての指導や助言を受けたり、利用者の住所変更手続きについても相談している。行政主催の研修やケアネット会議には積極的に参加し、地域の高齢者対策の取り組み等で連携しながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険防止に心がけ目配り、見守りを積極的に努めている。表情、全身チェックを毎日行い、朝のバイタル、入浴時、トイレ介助時には注意を払う。夜間等就寝時のベッドからの離床を確認するために安全を確保するためにセンサーマットを利用していただいている。	身体拘束についてのマニュアルを基に、拘束をしないケアを実践している。利用者の安全のため、やむを得ない場合は家族の了承を得て、短時間のみとしている。利用者の思いや行動を察しながら、優しく寄り添う支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に職員を参加させ、施設にて報告会をしている。職員同士利用者様への対応については朝ミーティングやカンファレンスを通じて情報を得ている。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度について詳しく理解はしていない。今後、研修への参加をしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にホームでの生活内容、入所条件等は詳しく説明し納得頂いてから入所を決めて頂いている。契約時には契約書内容を全て読み上げを説明を丁寧に実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を反映するよう努力している。面会時や電話などで思いを伝えてもらう。また、利用料請求書を発行する際に担当職員による生活状況等の手紙、ひだまりニュースを発行している。	利用者一人ひとりの状態や、暮らしの様子を記載したホーム便りを家族に送付し、意見や思いを聴けるよう工夫している。また、家族とコミュニケーションを図れるよう、利用料は毎月ホームに持参してもらう形を開設時から継続しており、その際に意見や要望を聴いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要のあるときは随時意見が反映するよう報連相の徹底をしている。稟議書に購入してもらいたいもの、必要なものを記入して提出してもらう。	日々の申し送りノートや気づきノートの記録により、意見や提案を職員間で共有している。福祉用具や備品の購入希望、休憩の取り方について、職員から要望があり、管理者は迅速に対応し、それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時には出来る限り休暇の希望を取り入れている。職員の健康状態、家庭環境も考え休暇願い、有給休暇、傷病手当金、産休申請等についても受け入れ実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市からの研修には積極的に参加し施設内研修も行っている。資格を取得する際には勤務時間等の配慮もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議に参加し、グループワーク等を通じ他施設の方々と意見交換をしサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に個々とのコミュニケーションを取り傾聴に心がけている。要望があればご家族と連絡をとり、不安を取り除くように援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面談及び入所時においても家族の要望に耳を傾け、安全、安心に暮らしていただけるよう努めている。入所される方の情報はアセスメント表を通じて職員全員に周知するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の事前面談及び入所時においても家族の要望に耳を傾け、安全、安心に暮らしていただけるように努めている。別途料金が発生するものがあれば説明し利用していただく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前の事前面談及び入所時においても家族及び利用している施設からの生活暦を聞き取り、利用者情報をアセスメント表を通じて職員全員に周知するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様が家族に対する思いを聞いた際には面会の際に利用者様の状況をお伝えし、年6回のひだまりニュースを発行し生活内容を見て頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前にお付き合いのあった友人、知人との面会については、ご家族の了解を得ている方には会って頂いている。	親戚や知人が来訪し、昔話や地元の話に花が咲いている。個別の買い物や行きたい場への外出は家族同行としており、衣類や日用品などの買い物は、家族と一緒に出かけている。美容院や近隣の喫茶店へは、職員が付き添い、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者様と関わりを持ち、個性を把握しトラブルにならないよう支援している。よく話をする方同士を隣同士の席にするなど配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ転居される方へは、食事、生活面でのアドバイスをを行い自立支援が出来るよう努めている。ご家族の方にもどのような支援が必要か説明し理解をしていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自宅への帰宅願望、家族への面会の要望があったときにはご本人の意向を聞き、電話をかけたり、ご家族との面会、外出をしていただいている。	日々の生活の中で利用者の好きなことを聞き取り、職員間で共有し、個別ケアに活かしている。歌が好きな利用者が多く、叙情歌や童謡、演歌など、全員が笑顔で、歌うことを楽しめる機会を多くもてるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時、入所時、面談時に利用者様、ご家族から情報を得ている。また、利用者様との日常会話から得た情報を共有し介護に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎ時に日常の様子の変化について情報を伝え、介護記録、業務日誌、気づきノートに記入し職員全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる際には利用者様、ご家族、職員と現在の状況を話し合い計画を立て同意を得ている。	家族の来訪時に合わせてサービス担当者会議を開催したり、主治医、看護師の意見を基に、申し送りや介護記録など、職員の気づきや利用者のできることを盛り込んだ介護計画を作成している。3か月毎に見直しを行い、緊急時には随時、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が次の実践への気づき、工夫になるよう検討し改善している。利用者様の情報については職員への連絡ように気づきノートを設けており記録した情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節を感じていただけるよう行事、誕生会、外出の計画を立て実践している。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々に訪問していただき、傾聴、折紙、お寿司作り等支援していただいている。市が行っている想ひ出カフェへの参加もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回、連携医の往診で定期的に健康管理を受けている。ご家族の希望があれば利用者様個別でかかりつけ医の治療を受けている。	契約時に、これまでのかかりつけ医への継続受診が可能であることを説明している。受診は家族が行い、緊急時は職員が適切に対応を行い、常に家族と医療情報の共有を行っている。毎月、協力医の定期往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員のうち1名が看護職であり情報を把握したとき直ちに連携医、もしくはかかりつけ医と連絡を取り対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した際も家族と連絡を取り、治療、退院計画について話し合いながら支援を行っている。入院先の病院の看護師、相談員とも情報を頂き関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に重度化した場合、特別養護老人施設への入所案内、当事業所として対応できることをご家族に説明し終末期の対応について話し合い、早い段階から進めている。	入居前に、重度化や終末期の対応について方針を説明し、同意を得ている。常時、医療行為が伴う場合や状態変化があった場合、早い段階から主治医を交えて、本人と家族の意向に沿えるよう関係者で話し合いを重ね、適切な支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な判断力、知識等は勉強しているが機器(AED等)での訓練が不足している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難、通報訓練を実施しているが夜間を想定した訓練や地域との協力体制が未だ出来ていない。	火災を想定して、年2回防災訓練を行っている。避難場所や連絡網の扱いなどを確認し、近隣との連絡体制は整っている。水害や地震等の災害対策については行政の指導を得て、今後進める方向としている。	災害は日中だけでなく、人手の少ない夜間にも起こることを想定し、職員応援体制の把握と確認、地域の協力などを得られるよう、運営推進会議等で検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で情報を共有しながら、一人ひとりの人格を尊重し、その人にあった言葉かけや支援をしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として敬い、会話や言葉かけの際は、利用者の目線に合わせるよう心がけている。食事の時間は、見守りながら介助し、食べこぼしはさりげなく拾い、利用者の誇りを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自己決定をし暮らしていけるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活の流れは決まっているものの、その日の体調等をみて対応し生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を整え、清潔な身だしなみができるよう支援している。ご本人の意向で美容院に行きヘアカットや毛染めを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地方色を活かした食事や手作りのおやつを利用者様と作っている。洗った食器、トレー等を拭いていただいている。	食事は調理専門の職員が担当し、旬の野菜をふんだんに使った献立になっている。職員も同じテーブルにつき、食べたい物を会話の中で聞きだし、次のメニューに活かしている。野菜の下準備や食器拭き、箸並べなど、利用者が自分のことを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の適量を把握し栄養バランスを考慮に入れ支援している。年中、水分補給には気をくばり不足がないよう援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の手洗い、うがい、毎食後の口腔ケアに注意し、義歯管理も含めてケアしている。		

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に対応したケアを心がけている。尿、便の回数等は朝のミーティングで連絡しリハビリパンツ、尿パット等利用している方についても基本はトイレでの排泄が出来るよう援助している。	リハビリパンツ使用の利用者が多いが、排泄パターンを把握し、声かけとトイレ誘導により自立を支援している。職員の努力により、入居時より排泄の自立度が良くなった利用者もあり、状態に合わせてパッドを薄くするなどの工夫で、費用の削減にも繋がっている。夜間も個々に合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況に応じ、早朝に冷水を飲んでいただいたり、緩下剤等で対応する。大腸の走行に沿ったマッサージ、散歩等の運動も便秘予防として援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回ではあるがタイミングの合わなかった方はいつでも入浴できるように援助している。入浴を拒否される方には清拭、足浴等で清潔保持への支援をしている。	入浴は、週2回が基本であるが、希望があれば曜日にこだわらず入浴できる体制となっている。職員が見守りながらの入浴や、会話をしながら、利用者の背中を流すなど、入浴時間をゆったり過ごせるよう、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	可能な限り自立した入眠が得られるよう援助している。昼食後は自室のベットで横になって休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬等は、気づきノートに記入し薬名、効能、注意点等を把握している。薬は、セットした職員以外が再度チェックし、服薬時には名前、日にち等を読み上げ、利用者様に服薬していただく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯たみ、洗い物、トレーや食器拭きと出来る方に役割を作り支援している。朝は自室の掃除をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り車椅子、押し車、杖等を使用し散歩に出かけている。ご家族へ外食、外泊の協力を要請している。	利用者一人ひとりの心身の状態に合わせ、近隣の散歩や、季節を味わえる外出をしている。年間行事では、左義長や花見、紅葉狩りなどへ出かけている。利用者が個別に行きたい場へは、家族の協力を得て、実現している。	

岐阜県 グループホームひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現段階では、お金を所持されている利用者様はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をかけたい方には、その都度対応している。夏祭りに案内状を利用者様に書いていただいた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先、フロアーには季節の草花を飾っている。季節に合わせた壁画、飾り物でその季節を感じられるよう支援している。冬は床暖房を利用して快適に過ごしていただいている。	玄関やリビングには、季節の植物を飾り、利用者が水やりをしながら季節を感じることができる。リビングの窓からは明るい陽が差し込み、床暖房や空調設備が整い、快適な空間となっている。利用者は日中のほとんどをリビングで過ごし、職員や利用者同士で会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルになると感じたときには、配置換えをしたり職員が間に入るなどして注意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、利用者様やご家族の希望を活かせるよう支援している。使い慣れた家具、調度品を持参していただいている。ただし、火気厳禁のためご本人、ご家族にも説明し理解を得ている。	居室前には表札が下げられ、本人が間違えないように工夫をしている。自宅から持ち込んだ家具の上には、馴染みの小物や鏡が置かれ、家族の写真が飾られている。職員は、利用者と一緒に片づけと掃除を行い、家具の位置も利用者と相談しながら決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	刃物等の持込については、可能な限り施設の物を使用していただくよう説明し、調理を手伝っていただく際には職員が付き添い安全を確認しながら作業を行う。		